

平成30年旭日双光章 受賞



澤上 大樹

叙勲の謝辞

平成30年秋の叙勲において、図らずも受章の榮譽に浴しましたところ、皆さまから暖かいお祝いの言葉を賜り、1月の青森県薬剤師会新年互例会の折に受章祝賀会まで開催して頂きましたこと重ねて御礼申し上げます。

これも一重に青森県薬剤師会木村会長をはじめとする理事の皆様、そして会員の皆さまの支援のたまものだと思っております。

これまで長年にわたり薬局・薬剤師としてこの業界の為に活動してまいりました。今回の受章は私自身というより薬剤師を代表していただいたものと考えております。

このように薬局・薬剤師という職能が広くみとられるようになるとは、私自身が薬剤師として働き始めた当時は想像もつかないことでした。昭和52年に六ヶ所村千歳平診療所で働き始めた頃は、地域格差が大きく国民がみな平等に十分な医療が受けられない時代でした。私が勤めた診療所も人材・医療機器・薬剤が決して充実していたとは言えない環境でした。そんな中地域の住民の為に薬剤師として又医療人として何かできることはないか、と自分自身に問いかけたのが今日までの私の活動の起源となっているように思います。

今日では分業率約70%となり薬剤師の働き方・責任・役割も大きく変化してきています。社会的に認められる職能である薬剤師は、社会的な責任を負う職能であるとともに、自己の利益のみの追及の時代は終わり、広く社会に認められる活動が今後の薬剤師という職能発展のカギになると思っております。

長い人生の中で私自身がんを患って治療に専念した時期もありました。そのつらい治療・復帰までの長い期間を妻である京子の献身的な支えがありました。その妻も2011年に癌でこの世を去っています。皇居において天皇陛下への拝謁の場に家内と共にたてなかつたことは少し心のこりではありますが、私自身これまで多くの人に出会い、多くの仲間を支えられ今まで薬剤師として活躍できたことを大変幸せに思っております。

今後益々青森県薬剤師会と薬剤師という職能の発展を祈念して感謝の言葉といたします。このたびは本当にありがとうございました。